
シンデレラと逝こう

七紙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

シンデレラと逝こう

【Nコード】

N8766K

【作者名】

七紙

【あらすじ】

一ヶ月に一回開かれる。舞踏会。王子様や、貴族のトップが集う城の中

一度でいいから参加してみたい、王子や貴族のかたがたを見てみたい。。そんな思いから、つついお城の中に忍び込んでしまう。シンデレラ、そこでシンデレラを待っていたものは・・・（続く）ファンタジーというよりは、童話に近いのかもしれませんが。

序章（前書き）

最初の作品となりますので、あまりできはよくないと思いますが、その辺はご勘弁を、楽しく読んでいただけたら、嬉しいですよ。

序章

シンデレラは自分のおうちの窓辺でひじを支えにしながら、月を眺めていた。月は時々雲に隠れながらも、空の上でひととき大きく輝いていた。

絵になりそうな程美しい少女の口から一言「苛立つし、理不尽すぎる。何様のつもりだよ。姉貴たちは、ちくしょう。」傍から見れば、十代後半のもの優しげな少女から漏れた声とは思えないほどのドスの聞いた声で誰もいない窓辺で愚痴をシンデレラは吐いていたのだった。否、人はいなくとも人の手の約半分ほどの小さなネズミが一匹、シンデレラの声に耳を傾けていた。

「シンデレラ、そんな事言わない方がいいよ。ただでさえ、君のお母さんやお姉さんたちは舞踏会に行く服を買いに行くからといって浮かれて出て行ったんだから。帰ってくるまでの時間を何かほかの事をして過ごそうよ。」

「でも、ナツク。もう後やることといったら、寝るくらいしかないわよ。家事の全ては、夕方にはすべて済んでいるし」まだ不機嫌なのかナツクのほうを見ずに、シンデレラは言った。

「なら、内緒で服を作ろう。いくら、シンデレラにかけるお金は無いといっていたって自分で用意をしまえば問題ないだろう。だから、やるうよシンデレラ。」

「うーん。じゃあ、とりあえず簡単なドレスなら、材料だけでも集めれば手早く作れるから作りましょうか、どうせ明日も一日中家のことしかやることがないんだからね」

「やるうよ、シンデレラ」ナツクが嬉しそうに小さくジャンプしながら踊っている。その様子を見なていたら、明日作るドレスは少しがんばって作ってみようと思ってしまう。

「ナツク、ありがとうね。」

「お礼はいいから、早くきれいな服を着たシンデレラをみしてく

れよ。」

「綺麗に出来るかどうかはわからないけどね。でも、そんなに期待してくれるのなら、早く作りたくなってきたから、今日はいつもより少し早いけどもう寝るわ。おやすみ、ナック」

「おやすみ、シンデレラ。あ、戸棚の奥の、パン食べていい？今日は、一日中何も食べてなかったんだ。」

「食べていいのは、ひとつだけよ。」そう言って戸棚のバスケットから、パンをひとつだけとって渡してあげる。

「ありがとう、シンデレラ」

「今度こそお休み。」

「うん、お休みなさい。」

「明日の夜中の舞踏会。「私はいけるかしら？」少しだけ不安を抱えて、シンデレラは眠りの淵へ吸い込まれていった。

序章（後書き）

最後まで読んでくださった方ありがとうございます。次回も機会があつたら、読んでみてください。更新は、たぶん遅いと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8766k/>

シンデレラと逝こう

2010年10月15日22時56分発行